



鶴学園広島工業大学附属広島高等学校・中学校同窓会

# 同窓会通信

2007号

この同窓会通信は、広島高校・附属中学校の学校通信2006.4～2007.3をダイジェスト版に編集したものです。

## ごあいさつ

同窓会会長  
森中 祥二



向夏の候 皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。  
さて、我が広島工業大学附属広島高校同窓会は、昨年40周年を迎え、平成18年1月には400人近い同窓生による記念総会ならびに祝賀会を開催することができました。また、鶴学園も同年に50周年を迎え、盛大な式典を行うと同時に、会員の皆様には寄附をお願いをさせていただき、多くの方からご厚意を寄せていただきました。この50周年事業に関する寄附活動は平成22年まで継続して行いますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願いたします。

※50周年寄附のお申し込みにつきましては、広島高校同窓会事務局までお申し付けください。

## 同窓会誌発行および広報協力金(1口1,000円)のお願い

E-mail/dousoukai@it-hiroshima.ed.jp

先の40周年記念総会開催にあたり、会員の皆様へご案内を差し上げましたところ、約1割の方の住所が不明で、年を重ねるごとに会員名簿が不完全なものになっています。そこで、年に1度ではありますが、会員の皆様に母校の現在の活動状況の報告や、同窓会活動のご案内等を目的に、同窓会誌を

発行することになりました。つきましては、お一人1,000円の寄附を賜りたく、ここにお願申し上げます。また同窓会誌のメール送信をご希望の方は上記アドレスまで「同窓会誌希望」と明記の上、ご送信ください。

## 志願者急増！

### 広島工大附属中学校・広島高校の入試状況

	志願者	入学者
中学校	939 (417)	183 (77)
高等学校	341 (156) うち、内部生152 (65)	182 (81)

( )内は女子

## 鶴学園創立50周年記念祭典、開催

6月9日(金)、鶴学園創立50周年を記念して、創立50周年記念祭典がグリーンアリーナで開催されました。鶴学園の7つの学校の児童、生徒、学生、教職員、PTA、保護者、OB、来賓の方々などの、およそ450人が会場に集まり、盛大な祭典となりました。この祭典は、全体を通して光と音にあふれたもので、まるで、オリンピックの開会式を思わせるものでした。祭典全体が一つのストーリーで構成されていて、ストーリーの中のそれぞれのシーンを各学校が担当しました。



鶴 襄 名誉総長

本校の生徒たちも、祭典のさまざまなシーンで活躍しました。「ようこそ7色のくにへ」では、スクールフラッグを掲げた、各学校の7名の児童・生徒・学生が登場しましたが、本校からも中学校と高等

学校の代表1名ずつが参加しました。「地球に舞い降りた天使たち」では、本校から、吹奏楽部、室内楽部、合唱部の生徒たちとソロボーカル1名が出演しました。「きらめきメッセージ」では、7つの光による人文字地上絵が作られましたが、本校からも多くの生徒たちが地上絵作成に参加しました。また、交流会の大抽選会では、司会の二人をはじめとして、本校の生徒会が進行を務めました。大抽選会は会場全体が一体となり、大変盛り上がったものとなりました。

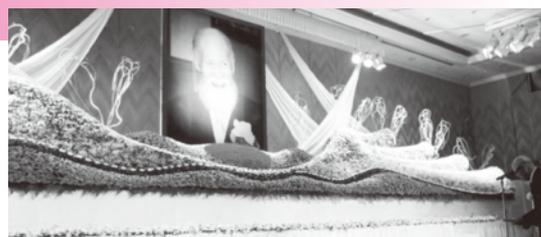
学園創立50周年という節目の年に、このような「光と音の祭典」に参加できたことは、生徒たちにとって思い出に残る経験になったのではないのでしょうか。



鶴 衛 理事長

## 鶴名誉総長お別れの会

鶴学園創設者であります鶴 襄先生におきましては、平成18年12月21日(享年91歳)ご逝去されました。平成19年2月23日に、リーガロイヤルホテルにおいて、お別れ会がしめやかに執り行われ、広島高校・附属中学校の生徒たちも多数参列。ご冥福を祈り、献灯を行いました。



# 豊かな感性を育む多彩な学びのスタイル

## 生徒による特別授業

### 教える立場に立ち自らの学びも深める

高校の研修旅行・マレーシアコースに参加した高校生が体験をもとに「特別授業」をしています。20名が中学1年の社会(地理)、中学3年のグローバル・ラーニング、高校1年の倫理の各クラスに分かれて1時間の授業を行います。まず、担当の先生と相談しながら授業案を作成し、次に教材、プリント、掲示物などを準備して、模擬授業を行います。そして、修正を重ねながら本番の授業に臨みます。

前期に中学1年の社会で授業をした若林歩さん(高校Ⅱ年5組)は、授業後次のような感想を述べています。

「授業を準備している間も、授業をしている時間も、と

ても充実していました。思うように準備が進まないこともありましたが、とても楽しかったです。授業をするために改めてマレーシアのことを思い出す作業は、私の中にある体験や記憶を整理してくれました。忘れていたことを思い出し、それをわかりやすくまとめることによって、私にとってのマレーシア研修旅行にひとつの区切りをつけ、断片的な思いを確固たるものにすることができました。1回の授業で全てを伝えきることはできず、まだ話し足りないです。私の話で1年4組のみんなが何か少しでも新しい発見・興味を持ってくれたらうれしいです。大変でしたが、充実し、やりがいがありました。また機会があれば、挑戦してみたいです。」

今回、高校生の授業を受けた中学生は次のような感想を述べています。

マレーシアの授業はすごくおもしろく、最初から最後まで興味津々でした。特に「サロン」という巻きスカートは柄や色合いが鮮やかで、感動しました。豚や鶏を殺して食べたという話を聞いて、命あるものを殺すのは気がとがめるけど、生きていくためには仕方がなくて、改めて自然界の厳しさを知りました。

1年1組 井上 真帆



Ⅱ年5組 坂本由衣さんの授業

## 芸術鑑賞

### 人の“声”のすばらしさを体感

#### 「塩田 美奈子 クリスタル・ヴォイスコンサート」

6月27日(火)、郵便貯金ホールにて、世界各国で活動されているソプラノ歌手、塩田美奈子さんによるコンサートを鑑賞しました。第一部の「おはなしオペラ『魔笛』」では、一人で何役もされる塩田さんの魅力に引き込まれ、

第2部の「世界の歌・日本の歌」では塩田さんの声にうっとりし、安らぎを感じ、あるいは元気をもらった人もいることでしょう。

人の「声」のすばらしさを体感したひと時でした。

すごく高い声を出す時に、なぜあんなにきれいな声が出せるのかと驚きました。コンサートの途中で、塩田さんが広島で暮らしていたことなどを広島弁で話されていたので、とても親近感がわいて楽しかったです。普段、「魔笛」の話聞くのと「お話しオペラ」で聞くのとは全然違う印象がありました。最後に歌われていた早口言葉みたいな歌は、自分も歌ってみたいと思いました。

(中学3年1組 近藤 郁美)



広島高校ならではの特色教育を磨く。ほんものの知性と人間性を磨く。

## サラワクスタディーツアー

日程/7月23日～8月1日

生徒たちは研修旅行に行く半年前から事前学習を重ね、マレーシアについて学ぶだけでなく、今の日本の生活を見つめ、日本の優れているところや問題点を浮き彫りにしました。マレーシアに旅立ってからは、油ヤシプランテーション・合板工場の見学を通して、日本とマレーシアとのつながりを感じていました。また、4日目からロングハウスにホームステイをし、イバン人の生活を体験しました。日本とは違う生活の中で、人と人とのつながりを感じていました。そして最も印象に残るのは、豚や鶏が絞められる姿を目の当たりにしたことです。血を流しもだえる姿に胸が苦しくなりましたが、その動物たちを食べることで自分は生きているという、生命のつながりを強く感じた研修旅行でした。

ツアーを通して得たものは、人間と付き合うことのおもしろさ。「ありがとう」とこんなに人に思ったことはなかった。何回言っても足りない。こんなに自分が人にやさしくしたいと思ったこともなかった。イバン人のやさしさ、メンバーのやさしさを私はもらってあまり返せなかったことがぐやしい。将来もっと自分らしい生き方をしようと思った。もう一つの家族もできた。

Ⅱ年4組 植田 怜奈



## 北海道・自然と生きる暮らし体験コース

日程/7月22日～7月27日

本コースは、従来の北海道アウトドア体験コースを改編し、然別湖周辺でのアウトドア体験(フィッシング、ラフティング、野外料理、マウンテンバイク等)に、平取町二風谷でのアイヌ文化体験、長沼町でのファームステイを加えました。

さて、本年度より取り入れたアイヌ文化体験は、NPO法人ナショナルトラスト・チコロナイの貝澤耕一さんによる「アイヌ民族と森」と題した講演を聞いた後、2班に分かれ、アイヌ料理を調理したり鶴学園所有の山林での植林(エゾマツ等)を行いました。

また、長沼町でのファームステイにおいては、生徒3人1組で農家に受け入れていただき、農作業を体験しました。夕食には長沼名物のジンギスカン料理をご馳走になり、大変親切にいただきました。

## 「最高の思い出ができた」

二風谷では植林やアイヌ料理の体験を通して、アイヌの人々の自然に対する思いを学び、然別湖周辺ではフィッシングやラフティング、マウンテンバイク等を体験し、ツアー旅行では絶対に味わえない大自然の醍醐味を存分に体験することができた。また、長沼町ではファームステイを行い、農作業を手伝っていただき、大変親切にしてもらった。自然を守り、農業について真剣に考えなければならぬと感じた。

Ⅱ年4組 村田 裕貴



## 北海道カヌー体験コース

日程/7月22日～7月27日

総面積19,290ha、見渡す限りに広がる大湿原、その中を流れる釧路川での川下りを中心に北海道カヌー体験コースは実施されました。

2人で一台のカヌーに乗り込み互いに協力し合いながらの川下り、インストラクターの方々とふれあい、コックロ展望台からの雄大な眺望などを通して、北海道の大自然を満喫。そして周りの人や自然と力を合わせていくことの大切さを学びました。中でも釧路川で釣ったザリガニの味は忘れられない思い出になったようです。



## 語学研修・交換留学

## 国際感覚を身につける

## 高Ⅰ ニュージーランド語学研修

日程/7月22日～8月14日

真夏の日本から真冬のニュージーランド(以下NZ)へ、計15時間の飛行機を乗り継いで29名の生徒が語学研修に行ってきました。NZでは、国立ワイカト大学の留学生専門の語学研修所に所属し、日本とは一味違う英語の授業を3週間にわたって受講しました。多彩なアクティビティーを通じて、聞き取り能力や表現能力を大きく伸ばすことができました。この研修の間、生徒たちはハミルトン市の各家庭



にホームステイし、NZの人たちと同じ生活を送りました。バスを乗り間違えて帰り道がわからなくなったり、英語が通じなくて困ったりもしましたが、各家庭で素朴なゆったりした生活を体験し、人と人との関わりの大切さを学ぶとともに、自分のこれまでの生活について考え直すきっかけになったようです。

生徒たちにとって最も大きな収穫だったことは、英語でコミュニケーションを取ることにより喜びを感じ、「もっと英語が話せるようになりたい」という意欲を持つことができたことです。なんとなく英語を勉強するのではなく、主体的に英語に向っていくことで、今まで以上に英語の能力を高め、より国際的な舞台で活躍できるように思います。

授業といっても、ネットボールや大学内の散歩などレクリエーションもあったので、NZという地を身近に感じる事ができました。また、授業中は基本的にEnglishだけなのはとても効果があると感じました。友人などと日本語で話しているのは、何のためにskill upをしに来たのか分からないし意味がないのだと感じました。語学を勉強すると言うことは、とても難しいのだと思いました。また、ワイカト大学のLAINで学びたいです。

Ⅰ年5組 榎木 舞

## 屋久島もののけ姫の森体験

日程／7月22日～7月26日

屋久島の研修旅行は、3班に分かれて、3つのエコプログラムを行うコース。今年は天候に恵まれ全てのプログラムを行うことができました。縄文杉は見に行かないものの、映画「もののけ姫」の舞台となった白谷雲水峡トレッキングで屋久島の「森」を体感し、シュノーケリングで美しい「海」の生き物たちと出会い、その「森」と「海」をつなぐ「川」でカヤックをし、夜には満天の星の中、ウミガメの産卵も見ることができ、本当の屋久島の大自然を満喫することができました。



### 「循環」

水が海から水蒸気になり、山にぶつかって雨になる。そしてその雨が森を育み、川の水となってまた海へ戻る。自然界のそういう営みを、身近で身をもって体験できた。人間関係も同じだと思う。情けは人のためならず。自分がしたことが人をわたって自分に返ってくるような感じがした。

II年2組 義川 彩

## 沖縄・伊江島ホームステイの旅

日程／10月8日～13日

沖縄本島中部から少し離れた人口5千人ほどの小さな島、伊江島。そこで民泊4泊たっぷり島の暮らしにひたった旅でした。「ただただひたすら『出会い』のための旅です。行くことで『家族』や『働くこと』や『幸せ』や『平和への個人のかかわり』——そんなものの見方が変わってほしい。」参加者のパンフレット1ページ目にそう書きました。



三線を教わる

参加生徒は旅の後、こう書いています。「人に頼ってもいいんだ。」「『もっと人を信頼しなよ』と教えられたように思った。」「帰ることのできる場所を得たような安心感。」「人と関わるのっていいもんだな。」「基地——何人もの人が叫んでも届かない悲しみと無力感に憎しみを抱いた。それと逆に島人の暖かさにも触れた。その相反する力の中で自分は成長できた。」

## 北海道スキー体験コース

日程／12月23日～28日

年の瀬も押し詰まった12月23日の12時20分、北海道スキー体験コースに参加する生徒、引率教員、添乗員の合計61名を乗せて、ANA791便は広島空港を飛び立ちました。2時間足らずで到着する予定が、千歳空港の滑走路の除雪作業のため、1時間ほど遅れて北海道に到着。すぐにバスでホテルに移動しましたが、北海道の大地は雪が降り積もり一面の銀世界。広島とは全く異なる北海道の様子に驚いていました。

2日目から、ルスツスキー場にてスキー実習を開始。初心者、最初は慣れないスキーに悪戦苦闘していましたが、みるみるうちにスキーに慣れていき、初日の実習が終わる頃にはかなり上達していました。これまでスキーの経験のあった生徒たちも親切な指導をしてくれるインストラクターのもと、スキーの技術を更に向上させていました。3日目、4日目は天候に恵まれ、スキー場は快晴。生徒たちは北海道の最高の雪質のスキー場でのスキーを楽しんでいたようでした。

5日目はスキー場でのバジテストの後、札幌へ移動。札幌はこの時期の北海道としては珍しく雨でしたが、これもまたいい思い出となりました。

今回の研修旅行で、生徒たちはスキーの技術を向上させるとともに、北の大地で様々な人たちと出会い、生涯忘れ得ぬ貴重な思い出を作ることができたのではないのでしょうか。



- ・トラブルあり、友情あり、涙ありの劇的な生活でした。とても普段ではできない体験。
- ・ウクライナの友人と一緒に演奏——相手との壁を忘れるよい一時。
- ・能力も大事だが、どれだけ交流しようとするかという積極性が最も重要。
- ・自分のことは自分で主張しないとそこに存在できないような気がした。
- ・物事の考え方で衝突もしたけど、認めて受け入れていれば、おのずと相手もそうしてくれるとわかった。電子機器の通信でなく、通じ合う、信じあうということができた。
- ・相手と出会うことは自分が相手をどこまで受け入れることができるか次第。『あんな考え方もあるんだ』と割り切ること。何事も人に語りかけること、話しかけられるのを待つ時間もつたいない。
- ・驚くこともいっぱいあるけど、素敵な発見もいっぱいある。しゃべるのが億劫にならないように。自分の意思をはっきり伝える自信を身につけてください。

## イギリス語学研修

日程／7月25日～8月12日

この旅では2週間の研修を行いました。午前中の語学研修もさることながら、午後のアクティビティーや三食を共にする寮生活など、270名の各国の十代が異文化衝突の真っ只中で共同生活を送ることがハイライトです。参加メンバーはこんな感想や翌年度生へのアドバイスを残してくれました。

## 中2ニュージーランド交換留学

日程／7月25日～8月12日

本校とパサデナ中学校との交換留学は今年で第11回目を迎えました。今年も非常に有意義な時間を送り、多くの出会い・感動・学び・感謝の気持ちを20人全員で共有することができました。ホームステイでは、文化や習慣の違いにとまどいながらも、家族として愛情をもって接してもらい、週末にはいろいろな所へ連れて行ってもらいました。また、本校生徒が事前に準備したジャパニーズフェスティバルでは、日本の文化を共有すべく、「よさこいソーラン」をパサデナ中の全校生徒を前に堂々と披露した後、グラウンドで日本の昔遊びや踊りを各クラスで楽しみ、交流を深めました。多くの違いを経験し、世界の全民族に対して心をひらく第一歩となったようです。

自分たちで考えて、自分たちでやったことは思い出してみるとたくさんあったように思いました。それぞれのいろんな事態を考え、それに対する対応策を考えたりする場面では少し混乱があったけど本当に良い経験でした。このような経験ができたことを誇りに思います。

2年1組 佐古 脩



# 輝く笑顔。学びの成果をカタチに。

## フォトメッセージコンテスト最優秀賞

高校Ⅱ年の平松絹子さんが「(財)国際文化フォーラム」が主催する「第10回高校生のフォトメッセージコンテスト」で「最優秀賞」を獲得しました。授賞式は2月24日、東京の相田みつを美術館において開催されました。このコンテストでは、友だちを1人選んで、その人の「素顔」を5枚の写真で表現し、撮影を通して感じたことや発見したことをメッセージとして文章にするものです。平松さんは、一緒にマレーシアの研修旅行に参加した真田悠希くんを主人公にして撮影を進め、作品を完成させました。5枚の写真とメッセージ(抜粋)は次の通りです。ホームページでも見ることができます。

さらに、平松さんはこの成果が評価されて広島県教育委員会が主催する「第2回メイプル賞」に選ばれ、3月27日に広島県庁で表彰式が行われました。

[http://www.tjf.or.jp/photocon/pastwork/b\\_2006.htm](http://www.tjf.or.jp/photocon/pastwork/b_2006.htm)

### 【メッセージの抜粋】

真田くんは将来、開発途上国で働く医者になりたいと言っていた。アメリカに留学したい、という思いもあるんだって。そのために勉強も頑張っているし、小学校1年生のときから習っている英語にも、更に磨きをかけていくつもりみたい。本当にやる気のある人だ。日本の高校生はみんな真田くんを見習えばいい。自分が生きている世界と、ちゃんと向き合う礼儀正しさを見習えばいい。私たちはいつも世界に引き寄せられただけで終わってしまう。それだけで満足してしまうのは、誰にでも出来ること。そこから一歩踏み出して自分の力で世界を引き寄せるにはどうしたらいいか、真田くんは気付かせてくれた。これからはただ引き寄せられっぱなしじゃなくて、自分の手で掴んでいこう。



授賞式で作品について話をする平松さんと真田くん



## 各賞受賞

### 平田 直之くん(Ⅱ年2組)

#### 「第8回高校生小論文コンクール」優秀賞受賞

今回受賞した平田くんの作品は最優秀賞に次ぐ優秀賞(1名)の受賞であり、作品は読売新聞1月1日号に掲載されました。平田くんは昨年度の文化祭テーマ「鳳翼天翔」の発案者でもあり、言語表現の巧みさが特に目立つ生徒の一人です。今回の受賞が今後への良い励みとなるでしょう。

国語科では本年度より、外部に作品を活発に応募していくという方針でさまざまな取り組みをしています。今回の「小論文コンクール」以外にも様々な募集に応募しており、現在、平田くん以外にも入賞の知らせが届いて来ているところです。

### 吉本 明未さん(Ⅱ年2組)

#### 「青少年からのメッセージ」2席受賞

高校Ⅱ年の情報の授業では、テーマを決めて、データの収集、活用についての統計的な学習をしています。主として数値、グラフを扱いますが、その根底に何があるのか、何故このような結果になったのかを分析する時、データの背景を探ることが重要になってきます。普段から問題意識を持ち、解決へ向けて考えるきっかけとして、「青少年からのメッセージ」という情報発信の場を利用しています。これは広島市が青少年健全育成に役立てようとする取り組みで、メッセージ集になり、ホームページでも公開されています。今年のテーマは「命」でした。吉本さんも問題意識を持ち、日常生活を送っている一人でした。「言葉の重み」について、情報発信しており、共感する人々は多いことでしょう。吉本さんが2席に選ばれたのは大変喜ばしいことです。

### 吉田 豊くん(3年1組)

#### 「第3回ひろしま・夢・エネルギー大賞」大賞(市長賞)受賞

中学3年の創造国際の授業で、各自が工夫してオリジナルのロボット製作を行っています。アイデアを出し、試行錯誤しながら学習していきます。その時、いろんな分野のことに好奇心を持ち探求していく姿勢が大切です。その流れの中で、環境やエネルギーなどについてのアイデアを提案していく「第3回ひろしま・夢・エネルギー大賞」に応募しました。吉田君が中学で学んできたことを活かしてアイデアを出し、子ども部門の大賞(市長賞)に選ばれました。今回は一般部門での該当者がいないため、唯一の大賞となります。

### 堀江 将生くん(Ⅱ年2組)

#### 「全国高等学校文芸コンクールイメージキャラクター募集」優秀賞受賞



プッピー

「父がこのような関係の仕事をしており、父から勧められて応募しました。この作品は誰にでも書けるというところが特徴です。「文」の文字を擬人化し、文芸への躍動感を表現し、また、「発信する」という意図でアンテナをあしらいました。」

## 英語検定準1級合格

3年間のアメリカ生活で様々なルーツを持つ人々と接し、各々の歴史や文化を体験できたのは、「英語」という意思伝達手段のおかげだ。帰国後も英語の授業はもちろん、映画や本、OCの先生との会話を通して常に英語がそばにある環境を作るよう心がけてきた。準1級合格を励みにこれからも英語から様々なことを学びたい。

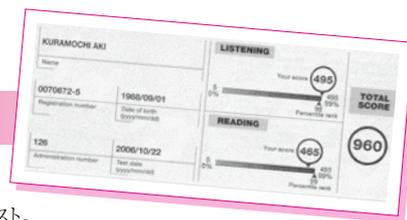
(中学2年1組 織田 聖平)

## TOEIC® 960点!

### TOEIC®で960点とは

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト。

約60か国で実施されており、テスト結果は合格ではなく、10点から990点までのスコアで評価されます。



私は高Ⅰの9月から約一年間、アメリカに留学していました。帰国後は同級生と同じ高Ⅱに進級することができ、今は大学受験に向けて必死でがんばっています。帰国後の英語の勉強は、学校での授業を大切にしました。余暇にも、好きな洋書の読書や、映画鑑賞をしてできるだけ英語に触れるようにしました。私が初めてTOEICを受験したのは高Ⅱの冬で、母に勧められての挑戦でした。それからの約一年間は、受験勉強に沿って苦しい文法力を強化し、学校の英会話部で、留学中に身についたリスニングのスキルを保つことに努めました。その甲斐があってか、今年の10月に再度挑戦したTOEICで前回のスコアよりも100点も伸ばすことができました。TOEICには合格基準などは特になく、自分の英語能力の成長を目にすることができるので、みなさんもぜひ挑戦してみてください。

Ⅲ年1組 倉持 亜岐

# 日頃の努力を实らせ見事大学に合格!

## おめでとう!

### 大学合格体験記

京都大学 工学部地球工学科 前期合格

Ⅲ-3 益永康平

**志望動機** 始めは先生に勧められ、高Ⅲになって実際に研究していることを調べるうちに本当に行きたいと思うようになりました。

九州大学 理学部生物学科 前期合格

Ⅲ-4 佐々木 恵子

**志望動機** もともと生物は好きな科目で、生物関係の仕事に就きたいと考えていたのですが、授業で生命には不思議な部分がたくさんあると聞き、研究職に関心を持つようになりました。

九州大学 薬学部臨床薬学科 前期合格

Ⅲ-5 赤木 貴紀

**志望動機** 中学生の時から薬剤師になりたいと思っており、医療現場で働く薬剤師になりたいと思いました。

名古屋大学 工学部機械・航空工学科 前期合格

Ⅲ-5 岡原 卓矢

**志望動機** 航空工学という学科は限られていて、その中で名古屋大が最も熱心な授業を行っていると感じたからです。

大阪大学 医・保健学科看護学専攻 前期合格

Ⅲ-3 柿手 里香

**勉強方法** 部活は室内楽部で、年中何かと行事や演奏会があり、とても忙しかったので、高Ⅲになる春に引退するまでは、学校の勉強のみをしっかりやりました。予習と宿題は必ずやるようにし、定期考査を活用して復習をするようにしました。高Ⅲになってからは塾と学校の両方を上手く活用して本格的に勉強を始めました。

大阪大学 工学部応用自然科学科 前期合格

Ⅲ-3 藤本 敦司

**志望動機** 物理や化学に興味があり、大阪大学では大学2年から専攻にわかれるので、幅広い選択肢があり、かつレベルの高い研究ができるということが魅力的でした。

横浜国立大学 経営学部経営学科 後期合格

Ⅲ-2 豊田 暁人

**勉強方法** 放課後、学校の先生に個人的に教えてもらう時間を一番大切にしました。これがあれば塾などは不要でした。

東京外国語大学 外国語学部ドイツ語学科 前期合格

Ⅲ-1 倉持 亜岐

**勉強方法** 普段から積極的に洋書を読んだり洋画を見たりしながら、英語に触れるようにしました。他の科目においても、まず興味を持つように努めました。そうすると自然に、苦手な科目でも勉強をするのが楽しくなりました。

北海道大学 経済学部 前期合格

Ⅲ-2 福島 佑輔

**志望動機** オープンキャンパスに行ってから、行きたい気持ちが強くなりました。

筑波大学 生命環境学類生物学類 後期合格

Ⅲ-3 榎 俊慧

**勉強方法** 授業はきちんと聞き、ヒマなときに資料集などを見て、塾づけにしないことです。

広島大学 歯学部歯学科 前期合格

Ⅲ-5 藪野 佑介

**勉強方法** 高Ⅰ・Ⅱでは英・数・国を中心に勉強し、理・社をⅢ年で本格的にやりました。センター試験は12月からの最後の追い込みがききました。

大阪外国語大学

外国語学部国際文化学科開発・環境 前期合格

Ⅲ-5 峠田 昌宏

**志望動機** この大学だけが、農業・アジア・先住民について学べたからです。

**勉強方法** 勉強の時間を「9時から10時半」と決めたら、メールなどがきても一切かまわず、その時間は集中して勉強しました。

東京学芸大学

教育学部養護教員養成課程養護教育 前期合格

Ⅲ-1 藤岡 奈史

**志望動機** 中学生の頃から養護教諭に憧れていました。高校でバスケットボール部のマネージャーを経験し、人を助けることにやりがいを感じたため、志望することを決めました。この大学は少人数制の授業を行っており、先生方のきめ細かい指導が受けられると思って選びました。

**勉強方法** 学校の授業を中心に勉強し、分からないところは先生に直接質問に行きました。また、苦手な問題は、分かるようになるまで何度も繰り返して解くことを心がけました。

# 東大・京大・阪大をはじめ、半数以上の生徒が国公立大学に合格!

## 2007大学入試 合格状況

(2007.3月末日現在)

卒業生209名(男子138名、女子71名)

私立大学

大学	合格数		内訳	
	男子	女子	男子	女子
北海道医療大	1	1		
流通経済大	1	1		
国際医療福祉大	1	1		
獨協医科大	1	1		
尚美学園大	1	1		
千葉工大	1	1		
東京歯大	1	1	1	
青山学院大	4	3	1	
亜細亜大	2	2		
学習院大	2	1	1	
北里大	4	3	1	
共立女子大	1	1		1
慶應義塾大	3	3		
国学院大	1	1		
国際基督教大	2	1	1	
駒澤大	2	1	1	
芝浦工大	7	7		
上智大	3	2	1	
昭和	1	1		
昭和薬大	1	1		
成蹊	1	1		
成城大	2	2		
専修大	2	2		
大東文化大	4	4		
玉川大	2	2		
中央大	20	14	6	
帝京大	2	2		
東海大	5	3	2	
東京工科大	1	1		
東京電機大	3	2	1	
東京農大	3	3		

国立大学

大学	合格数		内訳	
	男子	女子	男子	女子
東京理大	6	5	1	
東洋大	1	1		
日本大	11	9	2	
法政大	10	8	2	
武蔵工大	1	1		
武蔵野美大	1	1		
明治大	10	7	3	
明治学院大	3	3		
立教大	2	2		
早稲田大	12	7	5	
麻布大	2	1	1	
静岡産業大	1	1		
南山大	4	1	3	
名城大	1	1		
京都外大	2	2		
京都産大	1	1		
京都女子大	2	2		
京都橘大	1	1		
京都薬大	5	4	1	
同志社大	26	23	3	
同志社女子大	1	1		1
花園大	1	1		
立命館大	47	39	8	
龍谷大	7	4	3	
京都文教大	1	1		
大阪芸大	6	6		
大阪工大	2	1	1	
大阪国際大	1	1		
大阪電気通信大	1	1		
大阪薬大	3	2	1	
関西大	23	19	4	

大学	合格数		内訳	
	男子	女子	男子	女子
関西外大	1	1		
近畿大	14	12	2	
摂南大	1	1		
関西学院大	21	13	8	
甲南大	4	3	1	
甲南女子大	1	1		
神戸学院大	2	2		
神戸学院大	1	1		
神戸女子大	1	1		
神戸薬大	5	4	1	
武蔵川女子大	2	2		
流通科学大	3	3		
川崎医大	1	1		
川崎医療福祉大	1	1		
福山大	1	1		
広島経大	3	3		
広島工大	9	9		
広島修道大	17	12	5	
広島女学院大	3	3		
安田女子大	13	13		
広島国際大	4	2	2	
日赤広島看護	2	2		
西南学院大	1	1		
西南学院大	2	2		
福岡大	8	5	3	
福岡歯科大	2	2		
久留米大	1	1		
九州看護福祉大	1	1		
立命館アジア大	4	1	3	

公立大学

大学	合格数		内訳	
	男子	女子	男子	女子
北海道大	2	2		
筑波大	2	1	1	
千葉大	1	1		
東京大	1	1		
東京外大	1	1		
東京学芸大	1	1		
東京工業大	1	1		
横浜国立大	1	1		
名古屋大	1	1		
名古屋工大	2	1	1	
三重大	1	1		
京都大	1	1		
京都教育大	1	1		
京都工芸繊維大	2	1	1	
大阪大	4	3	1	
大阪外大	3	3		
神戸大	2	2		
鳥取大	1	1		
広島大	20	12	8	
山口大	7	4	3	
徳島大	1	1		
香川大	2	1	1	
愛媛大	7	6	1	
高知大	1	1		
九州大	6	5	1	
福岡教育大	1	1		
九州工大	4	4		
鹿児島大	2	1	1	

大学	合格数		内訳	
	男子	女子	男子	女子
首都大東京	2	2		
横浜市立大	1	1		
大阪府立大	1	1		
兵庫県立大	2	2		
神戸市外大	1	1		
島根県立大	1	1		
尾道大	1	1		
県立広島大	3	3		
広島市立大	8	7	1	
下関市立大	1	1		
北九州市立大	2	2		
宮崎公立大	1	1		

その他

防衛大学校	1	1		
国立看護大学校	1			1
水産大学校	2	2		

海外大学

ハワイバジフィック大	1	1		
------------	---	---	--	--

短期大学

山陽女子短大	1			1
--------	---	--	--	---

合計	合格数		内訳	
	男子	女子	男子	女子
私立大学	409	279	130	
国公立大学	108	74	34	

(過年度生を含む)